第 2018-50 号

恵みと真理のニュース

2018 年 12 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様は息子が教会学校で奉仕して熱心に信仰生活するようにしてくださり、海外の製薬会社の研究員として就職するように助けてくださいました。

わたしの魂よ、主をたたえよ。わたしの内にあるものはこぞって／聖なる御名をたたえよ。わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。
主はお前の罪をことごとく赦し／病をすべて癒し 命を墓から贖い出してくださる。慈しみと憐れみの冠を授け長らえる限り良いものに満ち足らせ／鷲のような若さを新たにしてくださる。（詩篇１０３：１～５）ハレルヤ！
わたしは礼拝をささげることに当会長のチョヨンモク牧師の説教に大きく恵を受けていますが、特に最近主日の礼拝で牧師が詩篇１０３編１節から５節までの御言葉の本文の説教を聴いてわたしの過去を回想して言葉で表現できない大きい恵と感動を受けました。
わたしは幼いとき友達が後ろから押して転んでしまって頭を大怪我をしましたが、神様が治療してくださいました。また、気管支拡張症で寿命６ヶ月しか生きられないと 医師から言われたときも、神様がわたしの病気を治してくださり、わたしの命の破滅から救ってくださいました。
このこと以外にも神様から受けためぐみは考えると御言葉の一節一節の意味が心に深く入り共感しました。そして、神様に感謝し、受けた御言葉の通りに従順するよういに心のそこでかたく決心しました。
わたしはイエス様を信じる母の里の家族の影響を受けて青少年の頃から教会にかよい信仰生活をしました。特に末子おばさんがわたしをかわいがって教会に連れて行きました。他のキリスト教の家庭と違ってわたしの家庭はお父さんが先に教会に行って、母は父が亡くなってからイエス様を受け入れ信仰生活をしました。
父親が亡くなった後、家で一番の役割をする兄の反対と迫害がとてもひどかったです 。家庭では教会とイエス様に関する話も出来ないくらいでした。それゆえ、わたしは信仰生活をするのが大変でした。自由に教会に行って神様を礼拝をするのを願い神様の助けを求めました。
そうするうちに、お祈りの中で幻を見ました。青草の原があってイエス様がわたしを 憩いの水のほとりに導いてくださる姿でした。その瞬間、わたしは賛美歌３６３番で神様に賛美しました。“わたしの試練と重荷を主の前に言い立てると苦しまれたわたしを見守ってくださる主がわたしのすべての心配をすべて受け持つ。わたしのすべての辛さと襲う患難を主の前に言い立てると主がわたしを救ってくださり、愛を与えてくださる、重荷を一人で担って倒れそう時かわいそうに思い救ってくださる方、恵の主、イエス”
このように賛美しながら聖霊様が感動を与えてくださり、聖書の御言葉を探して黙想しました。“ 愛する人たち、あなたがたを試みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じたかのように、驚き怪しんではなりません。
むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ちあふれるためです。（ペテロの手紙４：１２，１３）「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。（ヨハネの福音書　１４：１）
御言葉を黙想しますが、“いつもあなたと共にいる。という主の声が聞こえるような感じでした。わたしの神霊に聖霊の慰めが望まれました。その日から、わたしは信仰の胆力と勇気が出来て兄の反対と迫害を勝ち抜いてむしろ熱心に兄を伝道しながら教会に通うことが出来ました。
その後、結婚する時、婚家の家族がすべてイエス様を信じると言ったので結婚をしたら、婚家は異端の教派で信仰生活をしていました。わたしの一人でイエスキリストを信じながら苦しみを経験しました。それだけでなく、婚家では偶像を仕える祭祀を一年に一度ずつ行っていました。祭祀に使う食べ物を作るのことは私に真に苦痛で神様に申し訳なかったです。一度、祭祀に使う果物を準備しながら、神様の慰めと助けを求めて祈りながら包丁で十字架の模様を刻みました。そうしたら、祭祀をする時に、祭祀の上に大きく十字架の形が浮上する奇異な現象が現れました。これを家族が共に見るようになって ひとしきり騒動が起きました。
紆余曲折の末に祭祀を終えた後、夫が“もう姿勢を辞めておこう。”と提案しました。家族がこの提案を受け入れてもうこれ以上偶像に拝む行為はしないようになりました。旦那は去年６月から恵と真理教会に来て神様に礼拝を捧げる生活をしています。ハレルヤ！
二人の息子が教会学校で熱心に神様に礼拝を捧げたがもう青年になり教会学校の教師として奉仕しました。中高等部で奉仕した息子が軍隊の服務を終えて大学を卒業をしながら就職するときのことです。いろんなところで軍隊の入社願書を出して試験を受けましたが、いつも最後の関門を通り過ぎなくて落ちました。その時ことに息子は傷心しましたが、わたしは落胆せずに息子を励まして息子を励まして神様を仰ぎました。息子の就職のため、わたし達はもちろん、教区で多くの聖徒たちが自分の子供のことのように祈ってくださいました。
そうする中で、教会学校の修練会に行ってきた息子が夢を見た話をしてくれました。どんな大きい広場で自分が準備したのを発表し、人々から大きく拍手を受ける夢の話でした。息子は就職のストレスで髪の毛が抜ける症状までできたが、修練会に行ってきた後、新しく髪の毛が出始めました。そして、数ヶ月が経って多国籍の企業であるクロアチアのある製薬会社面接試験を受けるようになりました。
優れた才能や経験を持った人々が志願して競争率が高くて、また、面接官がすべてアメリカ人なので英語で自分が研究したのを発表して初めから最後まで英語で答えなければならないとても難しい試験でした。ところが息子がその試験を受けてたその日の夜、わたしの夢で黄色い封筒を出して神様が下さった一番きれいで大事な最後のプレゼント！と話したのです。夢から目覚めたわたしは息子の合格を確信しました。
息子はその入試に最終合格しました。後で合格者を見たらすべてが博士と修士の学位を受けた人々でした。わたしの息子は生命科学部で４年間の科学を専攻して楽しく勉強だけして博士も 修士もなかったです。ところが、その息子は研究員として合格されて他の人々はすべて営業職で働くようになりました。神様の恵みではないと説明できません。そして、息子は現在、その製薬会社の研究員としてクロアチア以外にもアメリカ、イギリス、カナダ、フランスなどの国を行き来しながら活発に研究活動をしています。
わたしはパンギョ聖殿で首区域長と女性奉仕連合会の委員の職分で教会と区域を仕えながら福音を伝えています。日々主を喜ばせながら愛と献身をするのを願います。そして、当会長の牧師が祝福してくださったように日々神様の恵みを体験する分量が多くなり深さが深くなり、天国に行く日まで神様を賛美する生活を続けるように願います。神様にすべての栄光を捧げます。

［信仰コラム］　天国に入られない信者

＂わたしにむかって『主よ，主よ』と言う者が，みな天國にはいるのではなく，ただ，天にいますわが父の御旨を行う者だけが，はいるのである。＂（マタイによる福音書 7:21）

魂の救い、天国、とこしえの命に関して無関心な態度で一生を生きて死に至る人はとても不幸な人です。関心はあるが、これを得る道を知らなくて誤った道に行く人も不幸な人です。また、他の種類の不幸な人がいます。信者だと呼ばれるが実状は信者ではなく、キリスト人だとは呼ばれるが実状はキリスト人ではない人です。イエス様を＇主＇と呼ぶが救いを得られない人がいるというイエス様の御言葉に私達が注意すべきです。主の御名を読んでも救いを得られない人を三部類に分けて調べてみます。
第一、毒麦の信者がいます。
毒麦は伸る間には小麦と分別しにくいです。伸る間小麦と毒麦の根が互いに絡み合うので毒麦を抜くと小麦と抜かれる恐れがあるので仕方なく収穫までは手放します。しかし、収穫の時には小麦を収めて倉に入れ、毒麦は集めて燃えます。誠なキリスト人ではない人がキリスト人のように成り済ますことはできるが、将来は必ず分離されます。最後の審判の時にはイエス様によって徹底に区分され処理されます。
毒麦の信者はキリスト中心ではなく自己中心に判断して行動します。教会中心ではなく自己中心に判断して行動します。キリスト中心、教会中心に判断して行動すべきを教えてあげても聞きません。適切な例がイスカリオテのユダです。イスカリオテのユダはイエス様に向いて＂主よ＂だと呼びましたが、イエス様を自分のどん欲を満たすための手段に扱いました。イエス様が言われた御言葉はイスカリオテのユダに自分の心思と行動について再考させるに十分でした。しかし、彼は心に決めた通りに進行しました。サタンの支配を受けると取り返すことができないということを見せてくれる証拠です。彼は毒麦でした。
第二、殻の信者がいます。
殻は皮だけあって中身のない穀物等の実です。信者の中にも殻の信者がいます。殻の信者はイエスキリストに向いて＂主よ、主よ＂と呼びますが、彼の信仰は形式だけで信仰の本質的な内容がありません。信仰生活をただ精神修養の方便に扱います。聖書で自分の知識と経験で納得しがたいことは自分の便利に歪曲して解釈します。聖書が聖霊に感じられた人々が神様から受けて話した神様の御言葉だということを信じません。人が著作したことでありますが、その中に神様の御言葉も一部あると話します。聖書に記録された通りに救い主であるイエス様の誕生と死と復活を信じず、天国の存在を否定します。殻は火に投げ込まれるようにこのような殻の信者は火と硫黄で燃える池に投げ込まれます。
第三、糠のような信者がいます。
糠は穀物の外皮です。外皮は中身とつけられているが、いつかは分離されます。強圧と対面のため教会に通う人がいます。キリスト教の家庭で生まれ親の強圧のためあるいは対面のため教会に通って、聖書を読んで賛美を歌い、お祈りもします。しかし、自分の心を開いてイエス様を救い主と迎接はしません。このような人は親の影響力から離れると信仰を捨てて教会を離れます。私的な利益を取ろうとする目的で教会に出席してイエス様を＂主よ、主よ＂と呼ぶ人も自分の願いが叶えられないと教会を離れてしまいます。このような糠のような信者は信仰生活を長く維持できず、いつかは離れてしまいます。
私達の信仰は天におられる父親の思いに合うべきです。父親の思いは聖書に啓示されており、キリストイエスの中に現れています。このような信仰を持った信者は誰でも関心事に驚くべきな変化ができます。この世にいきる間、最高の関心事が教会でまた天国です。
この世にはイエス様に向いて＂主よ！主よ！＂と呼ぶ人が多くいます。しかし、聖書はこのような人が天国に全て入るのではないと言われました。救われなかったら、天国に入られなかったら、とこしえの命を得られなかったらその信仰は空しいことです。皆さんには救いととこしえの命と天国が一生の間に主要関心事であり最高の関心事になるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

あなたがたはこう祈りなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

祈りは信仰生活の中で非常に大きな割合を占めています。祈りは信仰生活に活力を供給する井戸のもとであり、木の根のような役割をします。祈りは誰でもできますが、祈りをよくするには、祈りについて学ばなければならない。イエスは弟子たちに、「あなたがたは、このように祈りなさい。」と言われて教えてくれました。今日の本文は、イエスが祈りについての教えです 5 節から 8 節までに祈る者の正しい姿勢の対したことです。
5 節と 6 節では、人々に誇示する祈りをせず、神に向かって祈りなさいとしました。神への祈りは、小部屋でしても、神がすべてを聞いて答えられます。7 節で異邦人のように，　くどくどと　祈るな切実もなく、答えになることを信じるもなくて祈りを指します。神は冗長に並べる　祈り、流暢な言葉に誘われ、祈りを聞き、答えられることがありません。8 節は、私たちが求める前に、神がすべてを知っていますので、求める必要がないという言葉ではなく、当然祈りものを知らずに祈るも、神は、最も良いもので答えられるという意味です。
9 節から 13 節までは、主が教えた祈りです。
この祈りは、すべての祈りのモデルとして簡潔で完全かつ豊富な内容が含まれた祈りです。**「天にいますわれらの　父よ」**という称号を呼びながら始めます。復活されたイエスが言われた**「イエス　は　彼女に　言われた，　「わたしにさわってはいけない．　わたしは，　まだ　父のみもとに　上っていないのだから．　ただ，わたしの　兄弟たちの　所に　行って，　『わたしは，　わたしの　父またあなたがたの　父であって，わたしの　神またあなたがたの　神であられるかたのみもとへ　上って　行く」と，　彼らに伝えなさい」（ヨハネによる福音書 20:17）**としました。神様とイエス様の父子関係は永遠のものです。神と聖徒との豊かな関係は、契約的なものです。私たちが神の子になったのは、イエス・キリストを信じて聖霊で新しく生まれ変わりになったものであり、養子として息子です。
天にいますわれらの　父は、聖書に啓示された神です。イエス・キリストにあって明らかに啓示された神です。神を「 **天にいます　われらの　父よ**」と呼ばれるには、いろいろの意味があります。父は二人ではないので、神は一人であるという事実を教えてくれます。また、神は私たちの父であるので、私たちを愛情と関心を持って大事にくださるのを教えてくれます。また、天の父と呼ばれる言葉には威光と無限な力と能力を持った神であるという事実を教えてくれます。天地を創造し、遍在おられ全知全能の神であられます。イエスは、私たちが祈るとき愛の力を無限に持ち、父の神に訴えて求めるのを教えてくれました。
主が教えた祈りは大きく三つの部分に分けることができます。

第一はの部分は、私たち自身が神との正しい関係の中で生きるように祈りで求めています。

まず、「 御名があがめられますように」としました。

これは神聖な生活のための起源です。神の御名があがめられますように祈ることは、私たちの行為として神の名が神聖なものになるようにするという意味ではありません。神聖は神の本性です。 **ペテロの第一の手紙 1 章 16 節に「わたしが　聖なる　者であるから，　あなたがたも聖なる　者になるべきである 」**と 書いてあるからですと記録されました。したがって、「 御名があがめられますよう」という言葉は、私たちが神の聖なる名にふさわしい誉れと栄光を帰し生きるのを願っていることを意味します

次は、「 御國がきますように」としました。

これは神に従うし、生きるための起源です。「神の国」は「神の統治」または「神の王権」を意味します。永遠の神の国である、天国は明らかにし、将来新しいエルサレムが臨む日が来るでしょう。しかし、神の絶対的主権によって支配されている心の中では、神の絶対的な支配を受ける人々の中に臨む神の国があります。精神的天国、家庭天国、教会天国はこのような文脈で言うのです

その次は、「 みこころが　天に　行われるとおり，地にも　行われますように」しました。

人間への神の善いみこころが、私たちの生活の中に現れて行われることを願うものです。神の主権を認め、神の統治に順応すれば、神様の善いみこころがこの世で行われることを体験するようになります。神のみこころはいつも　善でおられます。人々が罪からの自由を得、サタンの抑圧から解放され、律法の呪いから離れになります。義と平安と健康と豊かを持っつようになります。神のみこころが　ヨハネの第三の手紙 2 節の一節に圧縮されています。「 愛する者よ．　あなたのたましいがいつも　恵まれていると　同じく，　あなたがすべてのことに　恵まれ，　またすこやかであるようにと，　わたしは祈っている」としました。そして「みこころが天で行われるように世でも行われるよう」という祈りは、主の御心が自分の行動に実現することを願うものです。私たちは、自分の維持意志を実現するためにと試みるのではなく、主が望まれる姿になるために努めて生きています

第二の部分は、自分の生活に必要なすべてのものと危険からの助けを求める祈りです。

まずは、「わたしたちの　日ごとの　食物を，きょうも　お与えください」しました。
今日の必要の起源です。日々の食糧を求めることを恥ずし、祈りと思うなら誤った考えです。神は宇宙と歴史を主管なさるが　一方的には空に飛ぶの鳥も野の草も大事にいただきます。神は人ではないから解決するに困難で大きな問題もなく、私たちへの愛のために非常に些細な問題も大変よう注意深く扱わされていただきます。神はご自分の民は、自己の子供たちの日々の食物を供給してくれます。神は荒野を行進するイスラエルの子らにマンナとうずらを授け、岩から水があふれ出るようにしていただきました。
200 万人が超える大群衆は荒野で耕作することもなく、貿易もしていない。ところが、40 年の荒野を行進中で餓死者は一人もいません

次は、「わたしたちに　負債のある　者をゆるしましたように，　わたしたちの　負債をもおゆるしください」としました。

許しを願う祈りです。許しすると許しを受けるとは切り離せない関係です。悔い改めたら許しを求める人を許さなければならない、自分の罪を許してもらう神に求めるときに大きな障害になります。人間関係での許しの聖書的な概念は、無条件の赦しではありません。イエス様がくださったのいましめは次のとおりです。
「あなたがたは，　自分で　注意していなさい．もしあなたの　兄弟が　罪を　犯すなら，　彼をいさめなさい．　そして　悔い　改めたら，　ゆるしてやりなさいもしあなたに　対して　一日に　七度罪を　犯し，　そして　七度『悔い　改めます 』と　言ってあなたのところへ　帰ってくれば，　ゆるしてやるがよい」（ルカによる福音書 17：3,4）。罪を犯す者をまず警戒が必要です。しかし、悔い改めば許してください
その次は、「わたしたちを　試みに　会わせないでください」としました。
世の中で生きながら誘惑や試験を全くあわない人はいません。私たちは、試験を取り除くもらう祈るのではなく、試験に勝つ力をもらうように求めることです。試験に落ちないように祈っている者には試験を克服する能力が主から与えられます。

その次は、「 悪しき　者からお　救いください」しました。

これは「邪悪な者から**救ってください**ように」という意味があります。聖書に悪魔を「邪悪な者」としました。悪魔は人々に悪を行うように誘惑します。　悪**しき**を悪魔とも呼ばれます。悪魔は人々の間を訴えて不和をします。人間と神との間を不和にして離間させます。そして、人間を滅亡に至るようにします。この世界は邪悪な者に属しているので、私たちは、悪魔の策略に落ちないように、いつも祈りが必要です

第三の部分は、永遠の神を賛美し、自分の信念を確証するものです。

まずは、「御国と力と栄光が父に永遠にあります」しました。
神の国は永遠です。私たちは、主の民は栄光な天国で永遠に生きることです。神の権威は永遠です。万有を永遠に治める権威です。神の栄光は永遠です。将来、神が私たちに与えてくださる栄光も永遠です。その栄光は、他の人をキリストに導いた人に与えてくださいます。主の仕事に貢献した人に与えてくださいます。福音のために苦難を受ける者に与えられます。
「御国と力と栄光が父に永遠にあります」という信仰告白は、永遠の神の国の民となり、永遠の父なる神の子どもになった私たちは永遠に呼ぶ賛美します。主が教えた祈りは「アーメン」という言葉の終わりを結んでいます。「アーメン」は、「そのままに行われることを願います。」という意味で使用されます。あるいは確証するとして″本当に″という意味があります。

「主が教えられた祈り」は、私たちの存在の全体を神への差し上げる祈りであり、また神を私たちの生活のすべての領域に受け入れる祈りです。そして、すべての願いを包括した祈りです。「主の教え祈り」があなたの祈りに活用されて生活に適用されて感動的な恵みを体験が続くことを願っております。